

くすのき

日南市立東郷小中学校だより第10号
R8.1.28(水) 文責:校長



◆第17回日南市新春子どもの声を聴く会◆

1月20日(火)、市ふれあい健やかセンターにて、「日南市新春子どもの声を聴く会」が開催され、市内小・中学校それぞれの代表児童生徒が発表しました。

東郷小代表の6年生児童は、世界情勢の理不尽さと自分の夢を結びつけ、誰もが安心して過ごせる世界にしたい、と力強く語ってくれました。その作文を紹介します。



『私の夢は 世界を変えること』

東郷小学校 6年生児童

私は、生きている間に必ず世界を変えてみせます。

みなさんは、世界で5歳未満の子どもの死亡率を知っていますか。世界では、約27人に1人が5歳未満で亡くなっているとされています。これは、日本の小学校の1クラスに1人の子どもが亡くなっているのと同じ計算になります。亡くなる原因の多くは、肺炎や下痢、感染症など、本来であれば治療できる病気です。

しかし、発展途上国では、病院や医療を受けるためのお金がなく、十分な治療を受けられない人が多くいます。私は新聞を読んでこの事実を知り、日本では当たり前前に病院へ行けることが、世界では当たり前ではないのだと気づかされました。

同じ子どもであっても、生まれた場所が違うだけで、教育や生活、将来の選択肢に大きな差が生まれています。自分では生まれる場所を選べないにもかかわらず、貧困や飢え、汚染された水に苦しむ生活を強いられるのは、とても理不尽なことだと感じました。

私の夢は、こうした苦しい状況にある人々を助け、誰もが安心して暮らせる世界をつくることです。

私は、以前読んだ本で、国際栄養士の太田旭さんが「国際栄養士」として活躍していることを知りました。太田さんは、アフリカのザンビアやアジアのバングラディッシュで慢性栄養不良の改善と栄養教育ができる人材育成のプロジェクトを立ち上げ、実践している方です。太田さんは、医学の発達した国なのに、栄養失調に苦しむ子ども達に出会う機会があり、栄養について知識がないために、このような状態になっているのではないかと考え、国際栄養士になったそうです。私は、医療面などだけではなく、栄養面でも人を助ける仕事があることを知り、自分も太田さんのような人を助ける仕事をしたいと思うようになりました。

私は、将来国際栄養士になるために、必要なことは、現地の人とのコミュニケーション能力と栄養についての専門的な知識を得ることと考えました。

そこで、今、英語の学習に力を入れ、コミュニケーション能力を高める努力をしています。将来は留学を通して海外の文化や価値観に触れ、視野を広げていきたいです。

また、栄養についての専門的な知識を得るためには、大学で専門的に学ぶ必要があると考えます。そのためには、日々の学習を大切にして夢に近づいていきたいです。

一歩一歩行動を積み重ねながら、今より少しでも良い世界をつくるために努力していきます。私の夢「世界を変えること」、必ず実現させてみせます。

